

大学の世界展開力強化事業 構想概要 東京大学

【構想の名称】(タイプA-1)

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学の三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。原則として全ての参加学生が3か国で英語を使用言語とする教育プログラムを体験するシステムである。

■ プログラムの目的・養成する人材像

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の学位プログラムの創成

日中韓トップレベルの三大学が協力し、交換留学による単位互換、さらに進んでダブル・ディグリーの学位プログラムを作り出すことにより、三大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの、優秀なグローバル人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

単位の相互認定については各大学における他の大学院で取得した単位の認定の規定及び手続きに従って行う。単位互換のプロセスや成績管理、履修状況管理などについても3校で協議の上、ガイドラインなどにまとめていく。

- ①相互で単位あたりの授業時間(週あたりの時間数×授業回数)をもとに換算方法をルール化
- ②各大学の修了要件を比較
- ③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる
- ④学生の一般的な履修モデルを提示する

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

ソウル大学校は3月始業、東京大学は4月及び10月始業、北京大学は9月始業というアカデミックカレンダーの違いを有効に活用し、集中講義の場で三大学の参加学生が一堂に会する機会を検討する。また、講義は原則すべて英語で行うが、各国の言語の初級レベルを学ぶ機会も提供する。留学生の希望者には、企業や国際機関等でのインターンシップが行えるよう受入先の機関を開拓する。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。

〈留学生日光一泊研修旅行2011.11〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整え、参加学生に無理のないように考慮する。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。また、三大学の連携による合同の委員会を立ち上げ、プロジェクトの運営にあたる。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して相談に応じる体制をとっており、相談の内容によって教員や先方大学とも連携をとってサポートする。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行う。また帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促す。

外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供する。

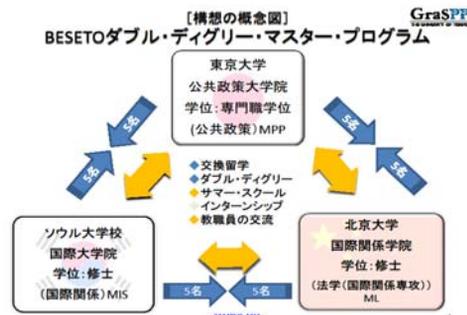
■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ71名(実数は約半数)の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ76名(実数は約半数)の受入を行う。



	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣 (延べ人数)	0	5	15	22	29
学生の受入 (延べ人数)	0	10	20	22	24